

数学科 ( 数学A ) 学習指導案					
学 級	3年C組 ( I 講座)	教室	合併教室	指導者	石川 巧
単 元	2章 確率		教科書	高校数学A (実教出版)	
指導 目標	1 試行と事象の意味を理解させ、確率の基本的な考え方を理解させる。		指 導 計 画	1 事象と確率(1)・・・・・・・・・・5時間 (本時はその1時間目)	
	2 様々な試行において、ある事象が起こる確率を求めさせ、問題解決ができる能力を養わせる。			2 事象と確率(2)・・・・・・・・・・5時間 3 独立な試行と確率・・・・・・・・・・2時間 4 反復試行の確率・・・・・・・・・・2時間 5 条件つき確率・・・・・・・・・・2時間	
本 時 の 指 導 過 程	主題	事象と確率			
	目標	1 試行と事象の意味を理解させる。 2 実験により、同様に確からしいことの意味を理解させ、確率の定義を定着させる。			
	課題	集合の復習をしておく。			
	学習内容		時間	指導上の留意点	資料・評価の観点等
	導 入	1 身の回りにある確率について考える。	5	・身の回りにある確率の例を挙げながら、確率を学習することを意識させる。	・本時の学習について意欲を持っている。
	展 開	1 試行と事象の意味を理解する。	10	・試行の結果全体や事象を集合で表わすことができることに注目させる。	
2 10円玉と画鋏を投げる実験を行い、表と裏、上向きと下向きの出方を調べて、同様に確からしいことの意味を理解する。		20	・10円玉と画鋏では、表と裏、上向きと下向きの出方が同様でないことを確認させる。	・10円玉、画鋏 ・統計用プリント ・10円玉、画鋏を投げ、結果をまとめてようとしている。 <関心・意欲・態度>	
3 確率の定義を理解する。		10	・同様に確からしくないときは定義に当てはまらないことを確認させる。 ・確率は0以上1以下の数で表わされることに注目させる。	・同様に確からしいとき確率が定義されることを理解している。 <知識・理解>	
整 理	1 本時の学習内容を確認する。 2 次時の学習内容を確認する。	5	・確率の基本的な考え方を確認させる。		
備 考	学科 (商業科) 類型 (B型) 生徒数18名 (男子3名、女子15名)				